

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示し、管理者と職員で共有し、実践できるよう努めている。	「地域密着型サービスの意義」を踏まえた理念について、一カ月に一回管理者と職員による勉強会を開催し、理念を掘り下げて具体的にはどのようにケアに生かしていけばよいか偕楽園としての意思統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしてはいるが、近隣で行われる行事等には参加させていただいている。	近隣の八百屋さん、床屋さん、薬局、スーパーなど商業施設を職員とともに利用しているののでそこで働く人々とは顔馴染みとなっている。また町会の運動会等に参加し、地域との交流を図っている。	地域との交流を更に深めるために現在進めている町会長との交流に関する話しあいを密にし、活動が日常的に行えるような積極的参加を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしてはいるが、近隣で行われる行事等には参加させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、地域包括支援センター、在宅介護支援センター等で話し合いを持ち、そこでの意見をホーム運営に取り込んでいる。	運営推進会議では、地域包括支援センターや在宅介護支援センターの方の参加及び意見、サービスの評価を受けて利用者、家族、職員との話し合いを行い、サービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月松戸市より介護相談員派遣事業を受け入れており、意見交換等を通して協力関係を築くように心掛けている。	毎月、市の介護相談員の方が来所し、利用者とのふれあいの場を通じて、職員の相談にもなっている。また、週2回地域のボランティアを招き、歌を歌ったり話しあいをし明るい雰囲気作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地上出入り口の施錠は行っているが、職員が入居者の身体的・精神的な自由を守るよう心掛けている。	事業所のすぐ前が、駅前通りの交通の激しい道路のため、ビルのエレベーター出入口については、暗証番号による規制は行っているが、職員同行の外出を可能な限り実施し、身体的・精神的自由を守るよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、勉強会等を通して虐待防止の意識を高めている。又、日々の身体チェックや精神状態・行動観察に気を配り、僅かなシグナルも見逃さないように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護に関する制度を活用する入居者はいないが、ホーム内に資料やパンフレット等を備えており、職員がいつでも目を通せるようになっている。又、管理者は権利擁護の研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	併設介護老人保健施設の支援相談員と協力し、入居者・家族共にすべての面において十分納得していただくような説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見を傾聴し、家族にも面会時に意見・要望を聞き対応できるように努めている。	日常のサービス提供の中から、利用者・家族などの意見、苦情等を把握し、それについて月一回管理者と職員によるミーティングを行い、対応策を検討し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は定期的に職員と運営会議を開催し、現状の把握や職員からの意見等を聞く機会を設けている。	月一回定期的運営推進会議を開催し、その中で、幹部職員と職員の個人面談を実施し、職員の意見や提案を聞ける場を設け運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりの業務状況・実績の把握、又職員の意見を聞きやりがいをもちながら働くことが出来る環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が各種研修会に参加できるよう体制を整えている。又、併設介護老人保健施設と合同で月に1回勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市認知症高齢者グループホーム協議会への参加や他グループホームの見学会等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の要望に耳を傾け、可能な限り入居者の希望に沿えるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後に家族との面談を十分に行い、家族の求めていることを理解するようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者及び家族の意向を踏まえた対応が出来るように、併設介護老人保健施設の支援相談員と共に心掛けている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	思いやりを持ち、共に過ごし、入居者にとって居心地のいい場所になるように信頼関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者本人に関しての情報交換を行い、入居者本人の意見を家族にも伝えている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所について、入居者本人からヒアリングをし、可能な限り関係が続けられるように支援している。	知人・友人等なじみの深い人たちについて、家族や利用者から情報をとり、可能な限り関係が続けられるよう支援している。また、近所の美容院、商店、薬局などへ同行し顔見知りを増やしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の為孤立することはないが、入居者同士が関わりあえるよう職員が間に入り、関係を保っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、相談等がある場合には対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から、入居者本人の希望を読み取り、検討し対応している。	本人が希望すれば、料理の手伝いや配膳、また掃除の手伝いなども行ってもらっている。これらを通じて利用者の希望、意向等の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に入居者本人又は家族に確認し、生活歴等を把握するとともに、入居者本人の経歴を尊重し、日々のケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の体調や状態等を把握し、それに合わせた一日の生活が送れるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスに家族が参加できるように声かけを行っている。参加できない場合には、事前に話を聞き介護計画を作成している。	家族には、来所時または手紙でケアカンファレンスの開催を通知し、参加を促しているが、参加できない家族には、事前に話を聞き、意見やアイデアを反映させ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を日々記入し、職員全体が常に情報を共有・把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況や要望等を踏まえ、サービスが画一的なものにならないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアや、地域の公民館で行われている「ひまわりサロン」に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医との連携をとっている。また、週1回法人の医師の回診も行っている。	入居前のかかりつけ医を含め、本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医との連携を密にして適切な医療を受けられるように支援を行い、併設のクリニックと情報交換し週一回の医師の回診も	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している介護老人保健施設・クリニックの看護師に相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員及び併設介護老人保健施設の支援相談員が協力して病院のソーシャルワーカー等との情報交換・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は原則行っていない。	利用者が重度化した場合には、別棟に併設の老人保健施設に相談を持ちかけ、早い段階から本人、家族などと話し合いを行い本事業所で対応できる最善の支援ができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応における施設内研修・マニュアル等により実践力を身に付けられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設介護老人保健施設と合同で避難訓練を行っている。地域との協力体制は、今後地域町内会と協議する予定である。	管轄の消防署と連絡を取り、消防署の指導のもと、併設介護老人保健施設と合同で、緊急対応マニュアルに従って年2回の避難訓練など防災訓練を実施している。	地域密着型の理念に基づき、地域との協力体制は欠くことのできない重要事項である。町会長などと連携し、協力体制の更なる充実に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、思いやりを持った声かけや対応を心がけている。	個人の尊厳やプライバシーの確保については、定期的に行われる会議・朝礼などで繰り返し研修を行い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人のレベルに合わせた対応をし、自己決定できるような声かけ・働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の希望を傾聴し、出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみの支援や、美容室への同行等も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好と栄養バランスを考慮し献立を考え、入居者とともに準備・食事を行っている。	毎朝、利用者の昼食の希望を聞き、一緒に近くの商店で食材を仕入れ、併設の調理場で手伝いの可能な利用者と料理をし、配膳も一緒に行い、テーブルを囲み明るく楽しい食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分の摂取量をチェックし、不足又は過剰の無い様に調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、入居者一人ひとりの排泄パターンを考慮しながら対応している。	日常の介護から排泄のパターンを把握することを心掛けて、必要な人には本人の意思を尊重しながら、排泄の介助を行っている。排泄の失敗があった場合には、原因を調べ、予防も含めた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食事を提供している。また、毎日体操等の適度な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	併設の通所リハビリテーションと入浴室が共用である為、入浴時間帯は決められているが、可能な限り希望に沿って支援している。	入浴は、バイタルチェックなどを確認しながら行っている。併設の通所リハビリテーションと入浴室が共用であるため、入浴時間帯はある程度決められている。しかし、本人の希望があれば、可能な限り沿うように支援している。	現状は、併設の通所リハビリテーションと入浴室が共用されているが、入浴は利用者の最も心の休まる場所であることを考慮して、希望時に入浴できる体制を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の入眠パターンを把握し、夜間安眠できるように日中は活動するように促している。又、就寝時間は決まってはいるが、入眠を強制せず、一人ひとりの希望に沿うように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が使用している薬の目的・用法・用量を確認し、服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりに合わせた役割分担をし、生活意欲が向上するように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から散歩、近隣への買い物の機会を多く持つようにしている。また、季節感を感じることが出来る場所等への外出の機会を、家族の参加を通して実施している。	日常的に近くの散歩、近隣の商店等への買い物等に行けるよう支援しているが、利用者の希望や家族の参加協力を得て季節に合った場所を選定し、普段は行けない場所への旅行なども行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では金銭は職員が管理しているが、希望により外出時は各個人に財布を持たせ、金銭の出納を自ら考えられるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使用できるようにしているが、入居者本人からの要望は少ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居心地のいい空間作りを常に心掛けており、生活感等に関しては室内装飾により感じることができるよう工夫している。	明るく広いリビングや会話の楽しめる小上がり、併設のダイニングがあり、リビングには季節に合った明るい絵や手作りのカレンダーなどが飾られていて、くつろげる共用空間作りを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・居間以外においてもソファや椅子を配置し、入居者同士で、又は一人で過ごせるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者及び家族と十分に話し合い、過ごしやすい空間になるようにしている。又、使い慣れたもの、好みのものを持ち込むように勧めている。	居室には、本人が今まで大切にしてきた、使い慣れたものや好みのもが持ち込まれ、思い出の写真や気に入った言葉が書写され、飾られているなど、利用者の心が安らぐ居室作りに工夫が凝らされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	入居者一人ひとりのADL・生活リズム・習慣等を把握し、それに合わせ環境づくりを心掛けている。		